

宇部市教育長賞

「東日本大震災で感じたこと」

宇部市立西岐波中学校 1年 佐藤 也実

東日本大震災は突然おこりました。私は当時東京都内に住んでいました。地震がおきたのは幼稚園から帰ってきて、制服を着がえた時です。こんな大きな地震ははじめてで、私は足がすくんでしまい、動けなくなりました。やっと地震がおさまった時は、安心して、力がぬけたほどです。避難をするまでの大事にはならなかったですが、パニックになってしまいました。しばらくしてご飯を買いに、コンビニへ行ったのですが、ほとんど売り切れていました。さらに災害の影響は続きます。夜には停電してしまったのです。ろうそく1本に火を灯して過ごしたので、不便だし、こわかったです。

今、東日本大震災で体験して、感じたことを思い返してみると、日頃からの備えが安全につながるんだと思いました。学校などで行う防災訓練は命を守るためにすごく大切な事なんだと改めて感じました。地震のこわさも知ることができました。一つの地震が大きな影響をおよぼすなんて本当に驚きです。東日本大震災がおこった時、私より小さい子はどう思ったのでしょうか。私より3歳下の弟の場合、恐怖のあまり号泣してしまったそうです。避難生活をしている人はどう思ったのでしょうか。東北地方は津波もあったため、被害が大きく、亡くなった方も多いと聞きます。避難訓練をたくさんやっている東日本。防災頭巾を全員持っているため、こっちに転校した時には思わず、「えっ、防災頭巾いらなの!？」とすごくびっくりしました。確かに山口県には大きな地震はあまりきません。ですが、いつ、どこで地震がおこるかは分かりません。少し

対策があまいのではないかと思います。もっと避難訓練をしたり、防災頭巾を各自持つなどの地震への備えをすれば良いと思います。もしかしたら地震をあまくみている人もいるかもしれません。地震はおそろしく、こわいものだと、日本だけでなく、世界にも伝えなければならない事実です。

これまでの、私の体験、感じ、思ったことをもとに、防災について考えなおしていきたいと思いました。私たちの住む日本は地震とうまくつきあわなければなりません。小さな対策がたくさん大切な命を救えるかもしれない。いつ、どこで、どのくらいの地震がくるかなんて、だれにも分からないのです。だからこそ、私達は地震のことについて、もっと深く知らなければならないと思います。学校でも対策をするなど心がけてほしいです。『地震は時にたくさんの命を奪っていく、自分の身は自分で守る。』このようなことを各自が心がけてほしいと願っています。

